

経営比較分析表（平成28年度決算）

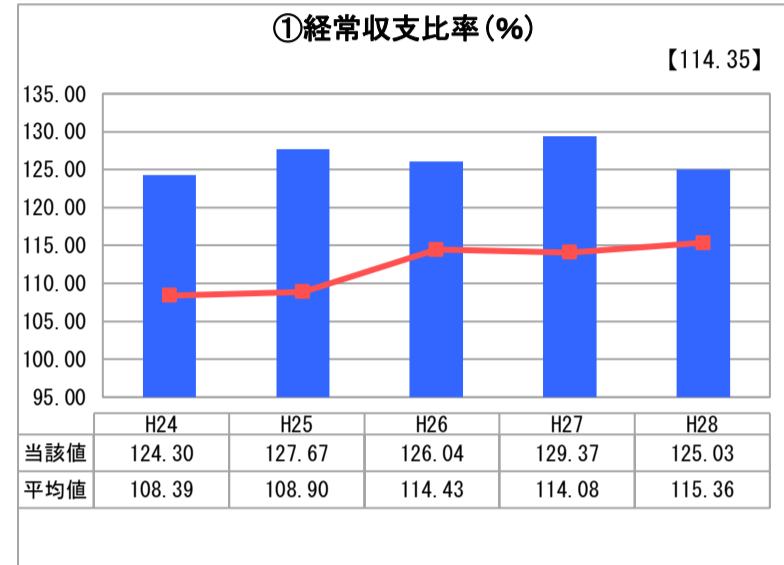
埼玉県 久喜市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	87.71	99.94	2,926	

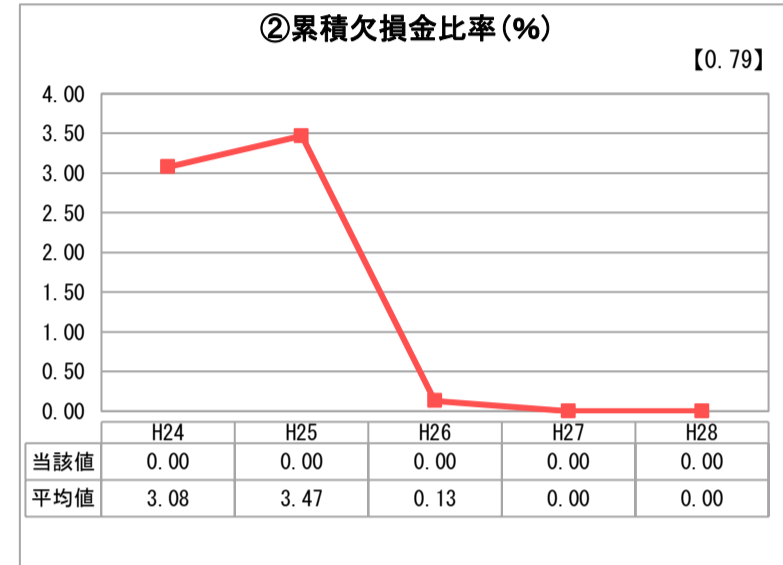
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
154,241	82.41	1,871.63
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
153,925	82.40	1,868.02

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成28年度全国平均

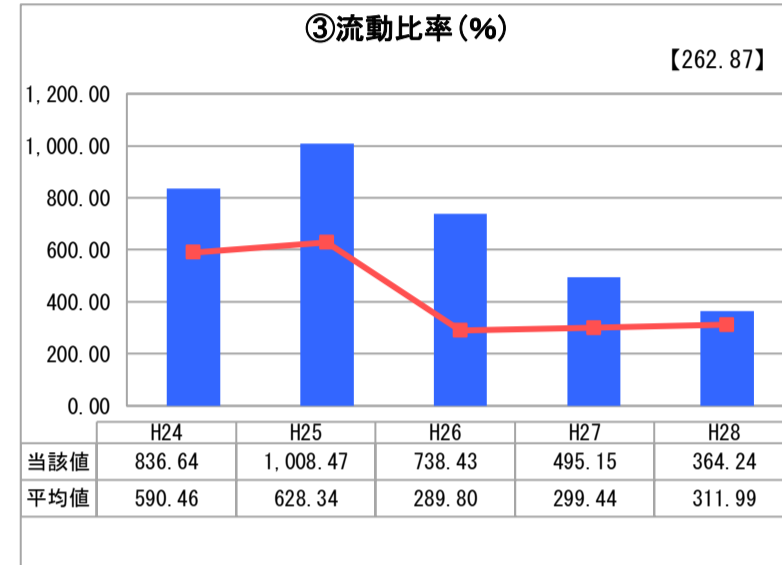
1. 経営の健全性・効率性



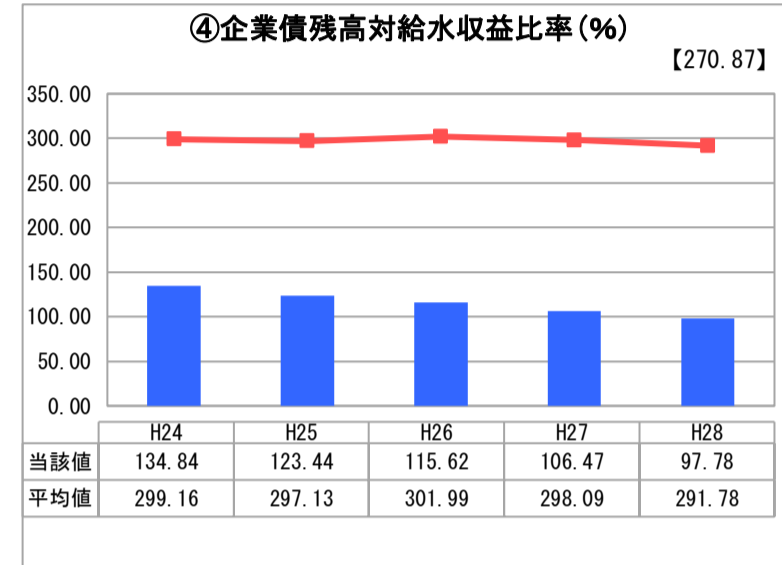
「経常損益」



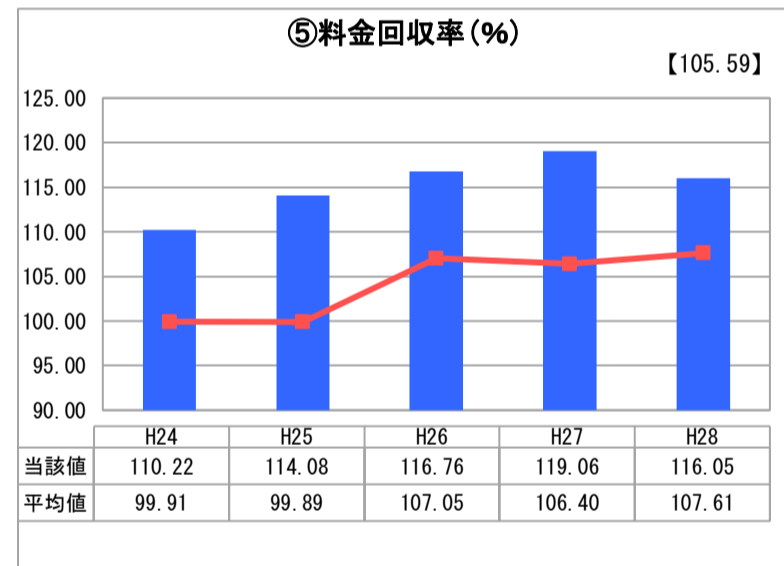
「累積欠損」



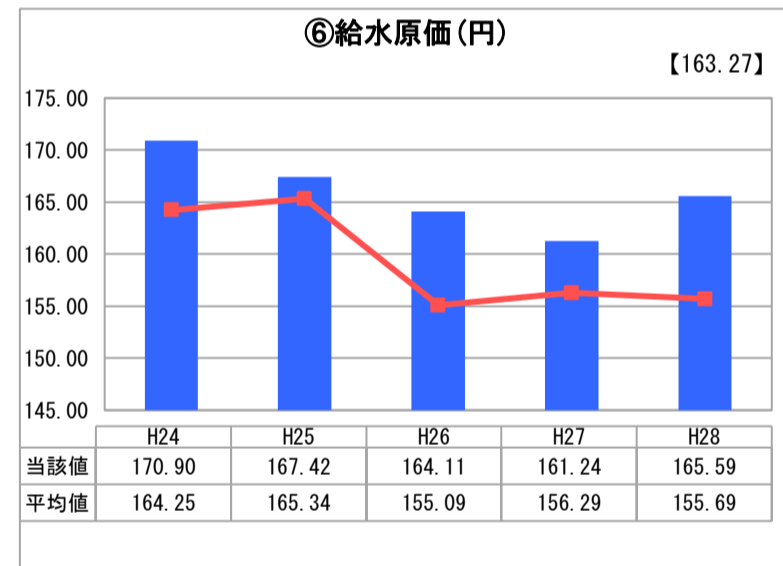
「支払能力」



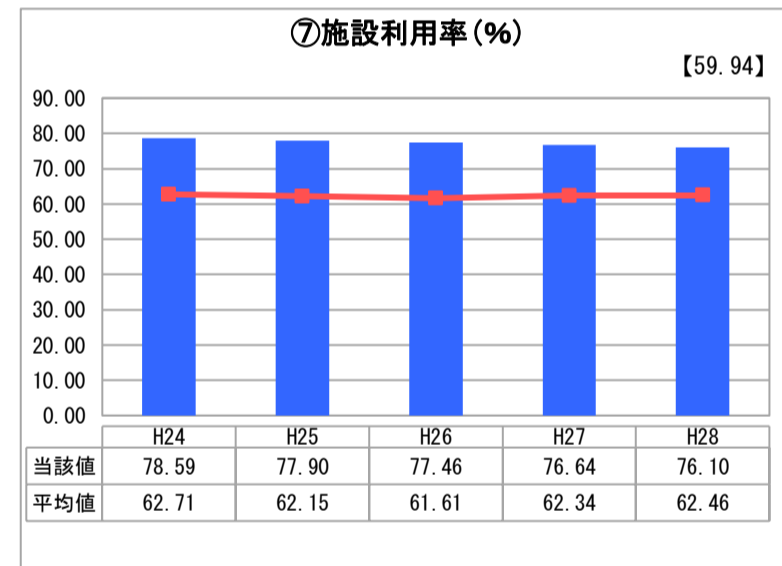
「債務残高」



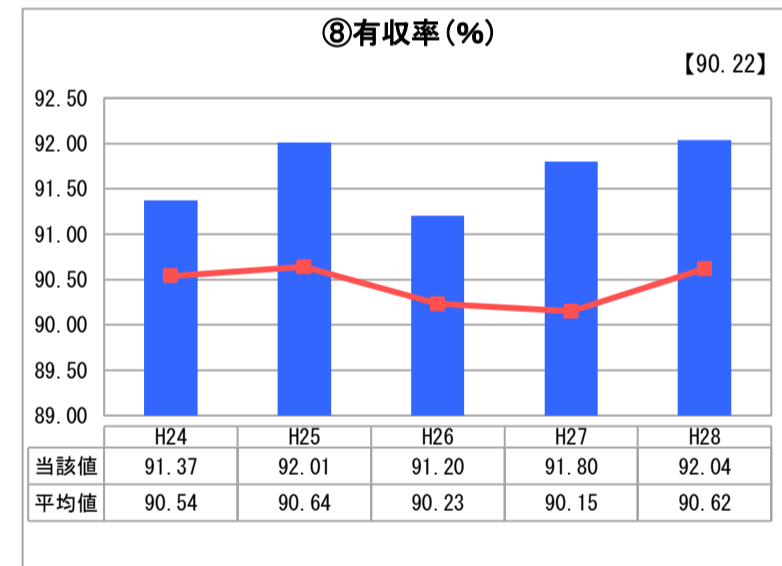
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

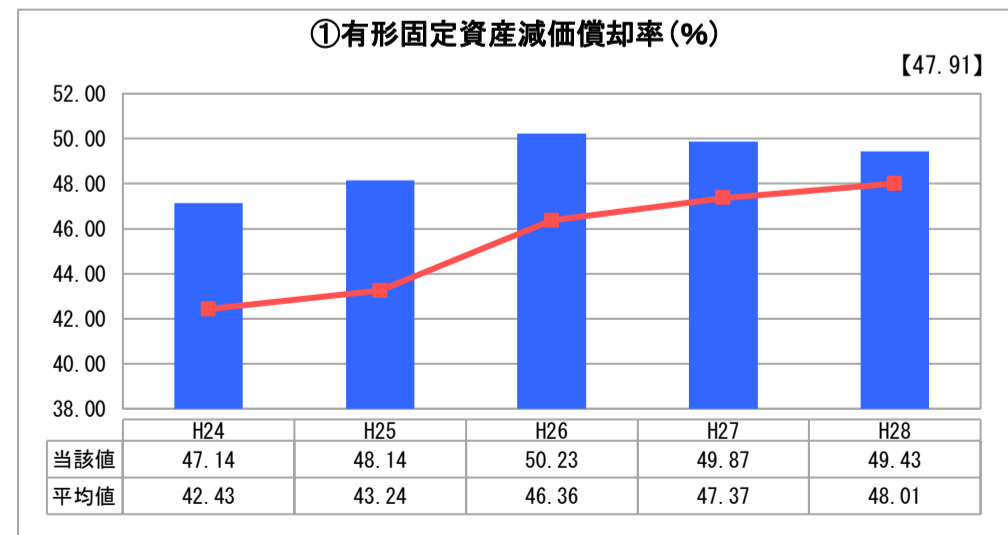


「施設の効率性」

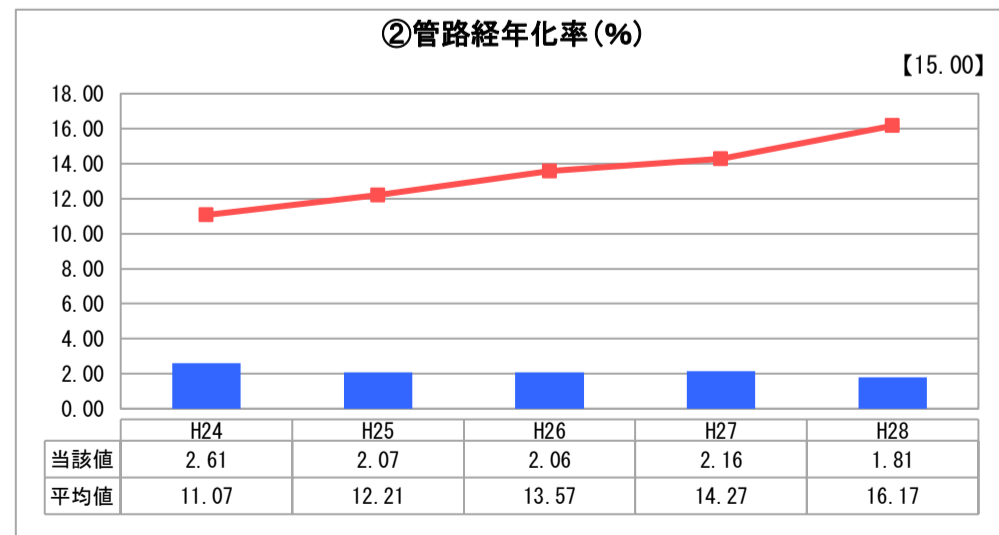


「供給した配水量の効率性」

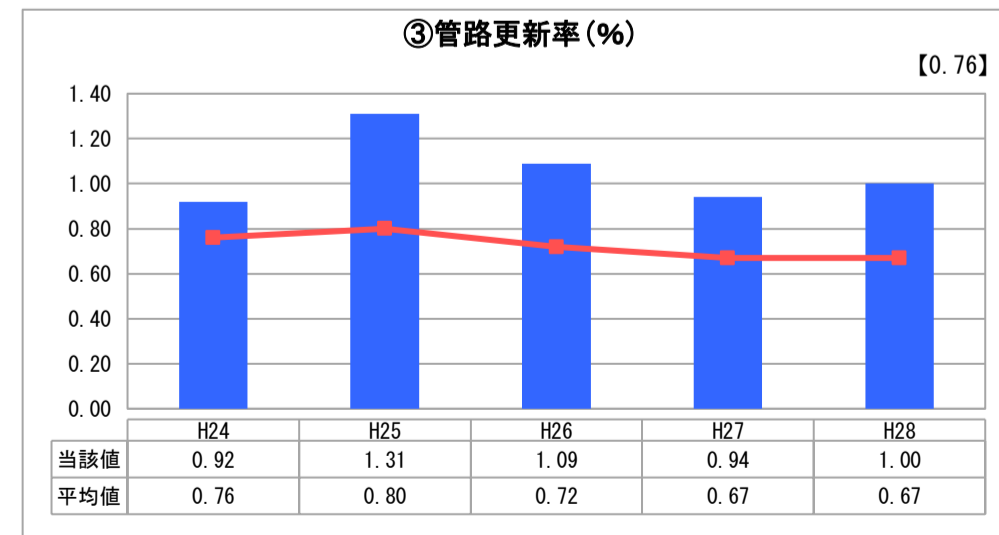
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
過去5年間100%を大きく上回っており、単年度収支が常に黒字であることを示している。また、類似団体平均、全国平均のいずれも上回っており、健全な経営を維持している。
- ②累積欠損金比率
過去5年間発生していないため0%である。
- ③流動比率
平成26年度以降、前年度対比で低下し続けているものの、類似団体平均、全国平均のいずれも上回っており、短期的な債務に対する支払い能力を十分備えている。
- ④企業債残高対給水収益比率
平成22年度以降新たな企業債の借入はなく償還も進んでいることから、数値は右肩下がりがとなっており、類似団体平均、全国平均よりも低い水準となっている。
- ⑤料金回収率
昨年度と比較し3.01%低下したものの、100%を上回っており、適切な料金収入を確保できている。
- ⑥給水原価
昨年度と比較し4.35円上昇し、類似団体平均、全国平均のいずれも上回っており、引き続き経費削減に努める必要がある。
- ⑦施設利用率
過去5年間横ばいで推移しているが、類似団体平均、全国平均のいずれも上回っており、施設を有効に活用している。
- ⑧有収率
漏水調査等の取り組みによって、昨年度と比較し0.24%上昇し、過去5年間で最も高い水準となっている。また、類似団体平均、全国平均のいずれも上回った。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
平成27年度以降減少に転じているが、類似団体平均、全国平均よりも高い水準で推移しており、引き続き財源の確保に努めながら計画的に施設の更新を行っていく必要がある。
- ②管路経年化率
類似団体平均、全国平均よりも大幅に低い水準で推移しており、法定耐用年数を超過した管路は少ない状況となっている。
- ③管路更新率
類似団体平均、全国平均よりも高い水準で推移しており、比較的管路の更新が進んでいる。

全体総括

経営の健全性や効率性については、各指標において類似団体平均、全国平均と比較すると概ね良好な水準となっており、総合的に勘案すると健全な経営状況にあるといえる。しかし、平成25年度以降現金預金が減少してきており、流動比率は悪化傾向にあるため、将来に向けた取り組みが必要である。

老朽化の状況については、管路更新率が類似団体平均、全国平均よりも高い水準で推移しているが、有形固定資産減価償却率が高く水道施設の老朽化が進んでいるため、今後、水道施設の更新投資の増加が見込まれる。

引き続き、更新投資の財源確保や経費削減に取り組み、将来を見越した健全な経営に努めながら、水道施設の更新を実施していく必要がある。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。